



緑豆(もやし)



契約農家が栽培・収穫した緑豆は、グラミンユーグレナ(ユーグレナ社とグラミンググループの現地合弁会社)がバンラデシュの市場価格より高く買い取っている



緑豆生産の体制構築事業準備調査

バンラデシュは国民の大半が農民であり、農村地区の貧困率が高い。また農業や肥料の活用レベルが低く、付加価値の高い作物を栽培することが課題となっている。ユーグレナ社はグラミンググループと共同で農家に高品質の緑豆栽培技術を指導し、収穫量・品質改善による農家の所得・生計向上に寄与している。緑豆生産の拡大に伴い、契約農家の所得が増加したほか、女性の雇用機会創出にも貢献している。

大豆、鶏肉 コーヒー アサイー、カカオ



広大な、どこまでも広大な、見渡す限り続く大豆畑。ここで生産される大豆は食用油や、大豆の搾りかすを飼料にした鶏肉に姿を変え、日本の食卓を豊かにする

日本では
食べている
もののうち約6割を
外国からの輸入に
頼っています

国際協力で 豊かにする 日本の食卓を

私たちの食生活が豊かなのは、世界のさまざまな国で生産される農作物があつてこそ。これまでにJICAが農業開発に協力した国々から、日本に輸入されている代表的なものを見てみよう。

セラード開発事業

ブラジルに「緑の革命」を起こしたといわれるセラード農業開発。着手してからわずか20年あまりで、不毛の大地は南半球最大の農業地帯に生まれ変わった。強酸性で、作物の生育を妨げる高濃度のアルミニウムを含む土壌を改良し、大豆の熱帯性品種の育種や、多様な作物の栽培技術の改良に貢献。広大な熱帯サバナ地域は一大穀倉地帯となり、大豆の生産量は43万トン(1975年)から4,000万トン(2010年)と飛躍的に増加した。セラード地帯で生産されるものも大豆にとどまらず、トウモロコシ、野菜、果物、畜産物、綿花、コーヒーなどに広がり、世界中に輸出されている。



「カカオ品質管理能力強化」のプロジェクトでは、農家が栽培した貴重なカカオを安定的かつ安全に輸出できる体制の構築に協力している

カカオ品質管理能力強化

ガーナではカカオ豆は金に並ぶ2大輸出産品として重要な外貨の収入源だ。生産量は大幅に増加している一方で、残留農薬への対応が追いついていない。分析機器の操作や、維持管理の技術指導、データ分析方法などの支援を行い、生産、流通、保管段階での農薬適正使用や市場ニーズに合わせたカカオ豆生産・流通システム構築可能性などの現地調査も行う。



プロジェクトでは日本企業との連携により養蜂家への協力も行い、マンゴーやバオバブの花から採れる蜂蜜が商品化されている

一村一品グループ支援に向けた一村一品運動実施能力強化プロジェクト

各県の担当行政官が、マラウイ全土70以上の生産者グループをサポートして一村一品運動に取り組む。帳簿管理やパッケージ改良など、農産品の加工による小規模ビジネスのノウハウを教えるほか、販売やドナー支援の受け皿となる生産者組合を設立。バオバブオイルやハイビスカスティーなどさまざまな商品が誕生し、生産者の所得レベルや農村女性の地位向上に貢献している。



小規模農家の輸出農作物安全性向上プロジェクト等

日本のゴマ消費はほぼ全量を輸入に頼るなか、パラグアイは日本にとって貴重なゴマ輸出国である。産地としてのパラグアイにおいては、ゴマの栽培・収穫の機械化が困難であることから、小規模農家の手作業で行われ、農家にとっての貴重な収入源となっている。JICAの協力ではゴマの優良種子への改善やバリューチェーン全体の品質管理体制の改善に取り組む。



日本とパラグアイとの協力により、安全・安心でおいしいゴマの日本への供給を目指す